

水生動物園 (分園)

- 3 ゲンゴロウ
- 4 カリガネ

水生動物園(分園)でも日本で見られる身近な生きものが飼育されています。より近くでじっくり観察できるのは動物園に来られた方の特権です！



ゲンゴロウ

泳ぎの得意なゲンゴロウ

ゲンゴロウは、エサとなる弱ったり死んだりした生きものを泳ぎまわりながら探します。このため泳ぎに適した体の形やつくりをしています。体の形は、丸みを帯びた水の抵抗が少ない流線形。さらに、太くて長い後ろあしにはブラシのように毛が生えていて、しっかりと水をかくことができます。

ちなみに、ゲンゴロウの近くで展示されている同じ水生昆虫のタガメは、あまり動かない待ち伏せタイプ。体の形や後ろあしのつくりを比べてみてください。

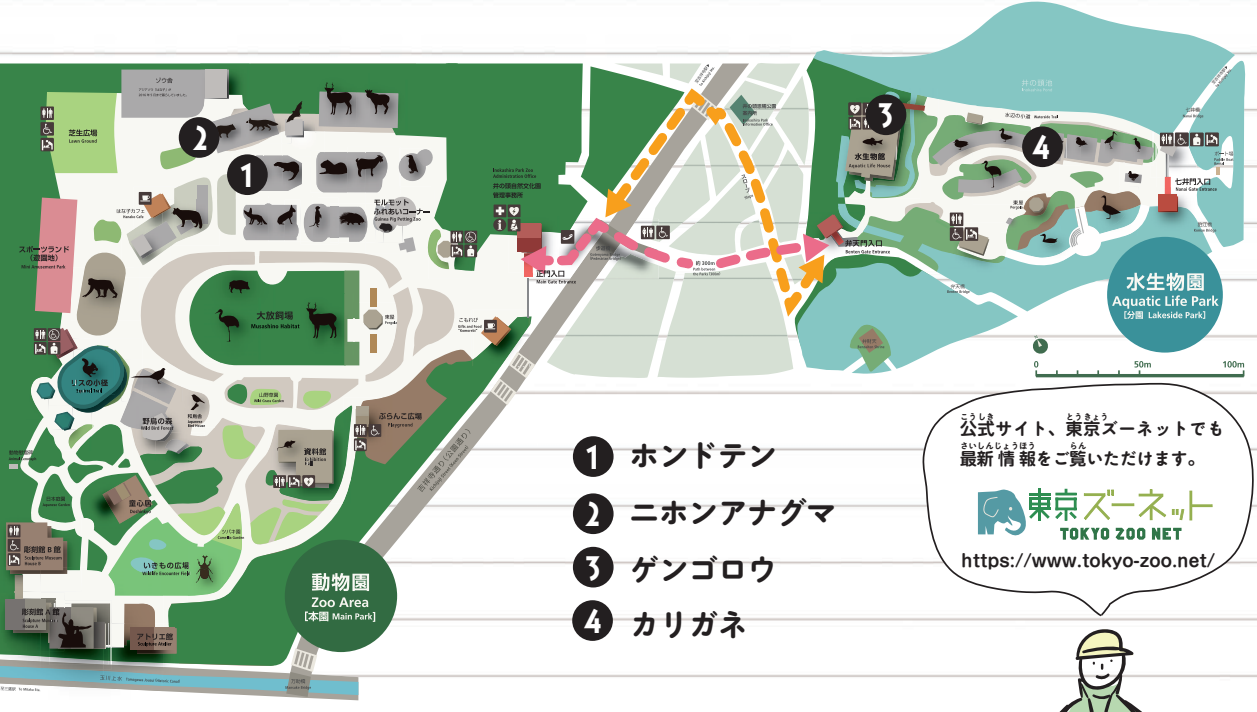
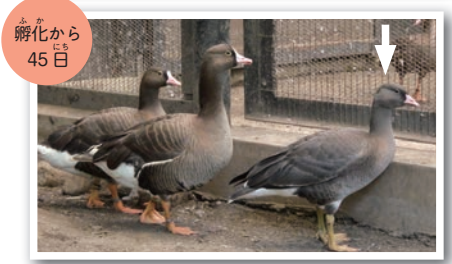
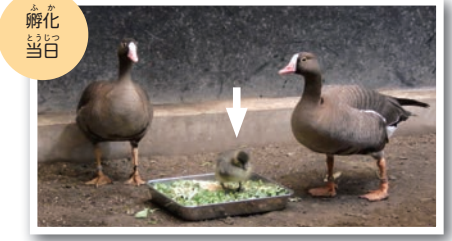


タガメ

カリガネの子育て

カリガネは日本には9月末頃、越冬のために渡ってくるガンの仲間です。5月には繁殖のため、はるか遠く離れた北極圏に戻ります。北極圏の夏は短く、6月上旬に孵化したヒナは、豊富なエサをたくさん食べ、急速に成長します。

1か月程で成鳥とほぼ同じ大きさになり、やがて成鳥の羽がそろって飛べるようになります。そして8月中旬には、南の越冬地を目指して、何千キロにもおよぶ長い旅に出るのです。



- 1 ホンドテン
- 2 ニホンアナグマ
- 3 ゲンゴロウ
- 4 カリガネ

公式サイト、東京ズーネットでも最新情報をご覧ください。
東京ズーネット TOKYO ZOO NET
<https://www.tokyo-zoo.net/>



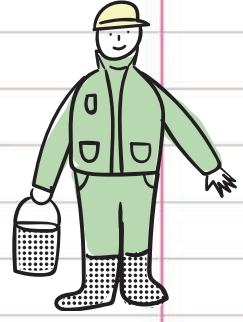
公式 SNS やってます！
文化園の最新情報を発信しています。



Instagram



井の頭自然文化園 80周年記念イベント



飼育係からのお便り

園内で見られる動物について飼育係がアピールします！



動物園 (本園)

- 1 ホンドテン
- 2 ニホンアナグマ

今月のピックアップ動物は...
動物園(本園)には日本だけに生息する動物もいます。身近なはずなのに見たことない動物も...? 知らない動物がいるかも...? 動物園でじっくり観察してみよう。

木登りが得意なハンター！でも甘いものも好き

ホンドテンはそのスマートな体や鋭い爪を使って、地面はもちろん木の上まで軽々と移動します。野生ではそのスピードを生かし、逃げ足の速いバッタやネズミなどをとらえて食べるハンターです。その一方で、カキなどの甘い果実が大好きな一面も。木登りが得意だからこそ、木の上になった食べごろの美味しい果実をいち早く食べられるのですね。



木の上に登るホンドテン

アナグマって「クマ」?

ニホンアナグマは、都内にも生息している身近な存在。展示場の種名ラベルを見て「クマだー」という来園者の方の声をよく耳にします。実はアナグマは、カワウソやテンと同じイタチの仲間。しかし、地中に巣穴を掘るくらしに適応したアナグマは、イタチとは異なるぼってりとしたフォルムや長い爪を持ちます。また、土の中のミミズなどの食べものを探る大きな鼻もポイントです。アナグマはクマじゃない！それだけでも覚えてもらえたら嬉しいです。



ニホンアナグマ

アジアゾウの「はな子」

当園で飼育していたアジアゾウのはな子。1949(昭和24)年にタイから来日し、1954(昭和29)年から2016(平成28)年まで当園でくらししていました。はな子がくらししていたゾウ舎では、当時の飼育記録や写真など、はな子の歴史をふり返ることができます。

皆様に愛され、69歳(推定)という大往生を遂げたはな子。井の頭自然文化園を語る上で、はな子の存在は欠かすことができません。



文化園 80年のあゆみ

特設展「あんこさんとゾウ——戦争が終わった！ゾウがやってきた！」を開催します！
期間：2022年9月13日(火)～12月4日(日) 場所：本園・ゾウ舎



ニホンアナグマ

英名 Japanese Badger

学名 *Meles anakuma*

分類 食肉目イタチ科